

5 - 2 エクステリア製品

藤 靖之・関戸正信

新しい市場としてエクステリア分野に着目し、門札に加え笠木、飾り棚、照明をあしらい磁器製アイテムによる和モダンの機能門柱を提案。成果物については、エクステリア研究会により商品化しその技術支援をおこなった。

1. はじめに

肥前地区の陶磁器産業は、ライフスタイルの変化に伴う食器需要が減少し、産地間競争外国製品との競合もさげられない現状であり、このままの食器分野の消費規模では産業(産地)を支えることは難しくなっている。

本研究では、新しい分野としてエクステリアに着目、上質な有田焼のイメージと伝統に培われてきた技術を活かした住環境に適応した商品の開発を行った。また、試作研究を行う上で、有田エクステリア研究会の協力えながら、機能門柱に必要なアイテムの開発に取り組んだ。

2. 機能門柱について

ポストやインターホン、表札機能を組み込んだ門柱型のユニットのこと。

(メーカーによってはファンクションユニット、ファンクションポールなどと呼ぶ。)

2.1 基本アイテム

笠木
門札
飾り棚
門灯

上記、アイテム試作にあたり、「千年翠」山寄氏(ガーデンデザイナー)監修のもと、加飾については有田エクステリア研究会のメンバーより、2社のご協力を得ながら試作を行った。



笠木



ブロック基礎による機能門柱



門札



飾り棚



門灯

3. 技術ワークショップ支援事業

3.1 エクステリア研究会について

3.1.1 目的

地域内や企業内にうずもれた企画や試作品を開発資源とし、現代のニーズにあった提案を研究することを目的とし、企画、試作、求評を行い、商品化を目指している。



研究会 企画会議

3.1.2 研究会の活動

月1回の定例会合を設定し合わせて勉強会を開催、秋、春の季節に求評活動を行っている。年3回程度の視察見学を実施、また、エクステリア分野の専門家などを招聘し、情報収集に努めている。また、活動拠点を2007年1月より、佐賀県陶磁器工業組合へその実施体制を移し、事務局を移転している。本年度は、当センターとの連携を密に技術支援を受けながら、過去に試作してきた門札に着目し商品化を企画、求評を行った。

内容	回数	場所
会議	15回	窯業技術センター 内 佐賀県陶磁器工業組合 内
展示 求評	6回	陶器市 大樽軒ギャラリー (有田町) 千年翠 (福岡市) エクシスフェア (福岡市) 陶磁器まつり大樽軒ギャラリー (有田町) 西日本トータルリビングショー (北九州市) ドマーニ福岡 (福岡市)
視察	3回	環境芸術の森 (厳木) 別府梢風園、千年翠 (福岡市) 池田製陶所 (有田町)

会長

梶原 茂弘 (有限会社 しん窯 社長)

会員

岩尾磁器工業株式会社 對山窯

株式会社 香蘭社

有限会社 しん窯

有限会社 副正製陶所

有限会社 辻与製陶所

株式会社 ヤマトク

有限会社 遊天窯

末村窯業 有限会社

事務局

大有田焼振興協同組合 (2006年12月末まで)

佐賀県陶磁器工業協同組合 (2007年1月より)

3.2 展示会支援

「第26回西日本トータルリビングショー」

西日本トータルリビングショーが3月16日～18日に福岡県北九州市の西日本総合展示場新館にて開催された。3日間の入場者数は1万4854人。

エクステリア研究会が中心となり、[千年翠]（株式会社府梢風園のガーデンショップ）の山崎八重子氏がデザイナーの監修のもと、ブース設計、製品開発に取り組んだ。



ブース全景



ストックヤードとサイン



コマ内[有田門札]の紹介

出展物は、ガーデンテーブル、BBQ テーブル、水栓柱、水鉢、門札、小窓、飾り棚、門灯、門柱キャップ、笠木など。生活シーンをイメージさせた展示を行った。特に、門札、笠木、門灯などは、実際に門柱にとりつけられており、来場者の関心を引いていた。



平門柱



角門柱 白塗り

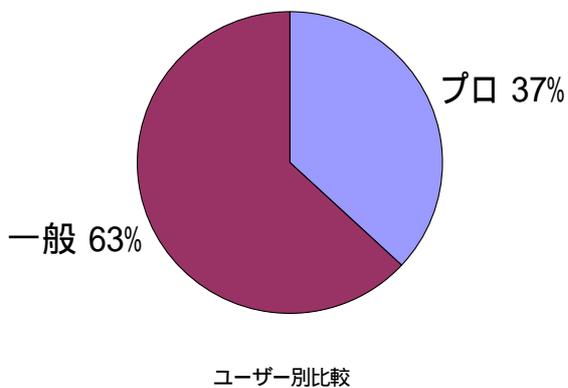
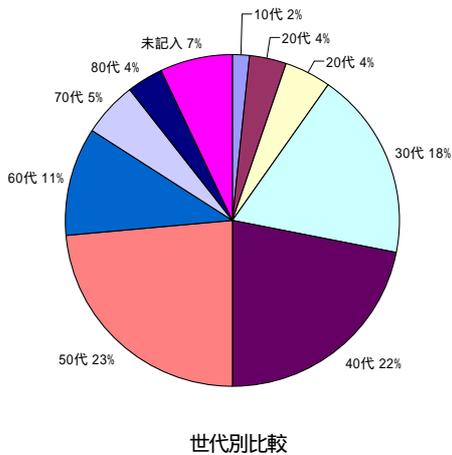
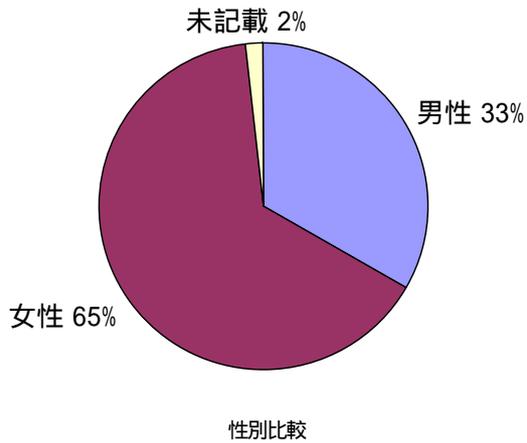


角門柱 黒塗り

3.3 求評

ブース内約 50 点の門札に対し、来場者の方にご意見を伺うことが出来た。特に、照明をあしらった雰囲気に関心が高かった。ガラスの製品とは違い磁器の持つ柔らかな光(透光性)がとても印象的であった。

サンプル数 計 114 人



透光性素地「あかり」を使用した門札



天草陶土を使用した門札(透かし)

4. おわりに

ガーデンテーブルや水栓柱に加え、今までにない斬新さで磁器製笠木や照明、門札、小窓などを発表することが出来た。

性別、年齢、職種を問わず、幅広い年代の方に高評、特に若い世帯の方、また、女性の方の関心は、インテリアの上質な有田焼のイメージで選んでいただいている傾向にあった。

期間中、様々な方へ情報を配信、エクステリア業界紙などからは、「特に門灯門柱キャップ、門札とイメージを揃えた展開や門柱に磁器クラッシュを塗りこんでいるのもユニーク」、「また、トンバイ堀風レンガも味わい深い」などに関心も高かった。

また、同じ出展関係者からも同様に評価が高く、商品化を待ち望む声が多かった。

高級感のある和モダンの表現ツールとして磁器製エクステリアは徐々に注目を集めてきている。

